二〇一二年　十一月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

仏法には、明日と申す事、あるまじく候う。

『蓮如上人御一代記聞書』

「明日があるさ明日がある♪」

坂本九さんが歌った八十年代の名曲です。今でもCMで、耳にすることがあります。

予習復習、家の手伝いなど、今日中にすべきことがあっても、テレビ・携帯電話・ゲームの誘惑に負けて、「明日があるさ」と後回しにしてしまうことはありませんか。楽観的になることも必要な時もありますが、目先の享楽に心を奪われ、大事なことを見失うのは要注意。

蓮如上人は「仏法については、明日ということがあってはならない」と、おっしゃられています。人間のいのちは、はかないもので、明日はどうなるかわかりません。にもかかわらず、時間に追われた生活の中では、仏法を聞くということも、おろそかになってしまいがちです。

今月の言葉は、本当に大切にすべきことをついつい後回しにしてしまう我々の姿を言い当てられ、忠告されているのです。

今月の聖語

私のあたまに　つのがあった　つきあたって　折れてわかった

榎本栄一

昔、島根県に浅原才市さんというお念仏のみ教えに生きておられた方がいました。

ある時、才市さんが絵描きに、自分の姿を描いてもらったことがありました。できあがった絵を見て、まわりの人たちは、「才市さんとそっくりに描けている」とほめました。しかし、才市さんは「私にひとつも似ていない」と言いました。絵描きは、「どこが似ていないのか」とたずねました。すると、才市さんは「私の頭には、鬼のようにつのが生えているはずです。だからそのつのを描き足してください」といいました。絵描きがその通りにすると、「これでそっくりになった」と喜ばれたそうです。

もちろん、才市さんに本当につのが生えていたわけではありません。つのを描かせたのは、自らの外面にはあらわられてこない鬼のような心があることを自覚されていたからです。

私たちにもある、人を憎んだり、嫉んだり、怨んだりする浅ましい煩悩のつの。そのつのこそ、苦悩の原因だと教える仏法に、「つきあたって折れて」、いつもは無自覚なつのに気付かせていただくのです。

合掌

宗教教育係